Elaphoglossum (2) および *Colysis* (4) は，検せられた種［( ) 内の数字は各属で検せられた種の数］すべてにおいて，陽性の細胞が見出された。*Plagiogyria* では *P. euphlebia* が陽性，*P. japonica* が不明確な陽性であったが，*P. adnata*, *P. matsumureana*, *P. stenoptera* は陰性であった。また，*Dennstaedtia* では，*D. hirsuta* は陽性であったが，*D. scabra* は陰性であった。*Pteridium aquilinum* は供試13個体中，大部分のものは陰性であったが，若干のものが，不明確な陽性を呈する細胞をもち，*Lycopodium squarrosum* は，2個のうち，一つは不明確な陽性，他は陰性であった。他の89の属のものは，すべて陰性であった。

○オオカナメモチが岡山県下に自生する（林弥栄）Yasaka HAYASHI: *Photinia serrulata* found in Okayama Prefecture

オオカナメモチは中国大陸，台湾に分布し，日本では奄美諸島中の大島と徳之島，四国愛媛県下の宇和島附近に自生することが知られている。四国宇和島附近に野生のあることは最初植木秀幹博士により認められたと聞いている。広島大学の堀川芳雄博士はヒコビヤ 4: 6 にこれらの分布図を記載されている。関東以南の暖地では庭木として稀に植栽されているが，大きな照葉は美しいものがある。普通のカナメモチより葉は大形で長楕円形，楕円形，または長倒卵形をなし，長さ 10—17 cm，幅 3—6 cm 革質で上面は無毛で光沢があり，下面にも毛なくやや蒼白色をしている。縁辺には細鋸歯または刺状鋸歯がある。冬芽は赤色をなし大きい。幼葉は帯紅色であるがのち次第に暗緑色となる。新葉の出揃ったあと旧葉の大部分は美しく紅葉し，落下する。花は白色弁で，花部に毛はない。果実は球形で紅熟する。


オオカナメモチ *Photinia serrulata* 岡山県和気郡日生町寒河産.

岡山県赤磐郡瀬戸高等学校の教諭をされている大久保一治氏から岡山県下に珍しい大葉のカナメモチが山にはえているということを聞いたのは1昨年であった。私ははじめ中国大陸や台湾に主として自生するオオカナメモチなどが自生するはずはなく恐らくカナメモチの奇形的に葉の大きくなったものと思い，彼地で採集した腊葉を送って下さいと依頼した。間もなく一枚の標本を送ってくれた。それは花も果実もないステリルなものであったが，冬芽や葉をみ

てオオカナメモチ(*Photinia serrulata*)かそれに近似のものであることがわかり驚いた。昨年晩秋四国にハナガガシの自生地を調査見学した帰途 11 月 21 日にオオカナメモチのあるところを大久保氏に案内してもらった。自生地は赤穂線にそった岡山県和気郡日生(ヒナセ)町大字寒河(ソゴウ)というところで，有名な兵庫県赤穂市に近く，北緯大凡 34°45′ で，直線距離だと海岸まで 1000 m 余りしかない。細江をへだてて南には鹿久居島という鹿の野生するかなり大きな島がある(コケセンボンギクの天然分布の北限地)。オオカナメモチの生育する山の地質は火山岩のようである。自生地の海抜は大凡 100—200 m で，植生は高木層としてクロマツ，アカマツ(少量)。亜高木層はない。低木層はネズミサシ，ウバメガシ，コナラ，アラカシ，カマツカ，ヤブツバキ，ヒサカキ，ナナメノキ，ヤマウルシ，モチツツジ，ガンピ，タイミンタチバナ，ムラサキシキブ，ヤブムラサキ，コツクバネウツギ，サルトリイバラなどが密生している。草本層はコシダが多く一面に繁茂し，ほかにはススキやアキノキリンソウなどが少量みられるにすぎない。とにかくやせ山で何の特徴もないところである。現地を調査し色々考察してみた結果自生であることを確認した。さきに大久保氏に念のため附近一帯の神社，寺院，学校，民家などにこの木の大木が植えられていないかどうかをたしかめてもらったが，どこにも植えられてはいないそうである。附近に植えられていて果実がなると，鳥により種子が運ばれ野化することがあるからである。大久保氏の精細な調査によると私の見た谷間のほか谷に計10本位現存しているという。私共が現地に行く途中の民家に低木性のものが 2 本植えられていたので，これはどこからもってきたものですかと聞いてみたら，珍しい美しい木なので北方の山から堀ってきて植えたものであるといった。この家のほかあちこちの民家に山堀りのものが植えられているとのことであった。このことからみてもとはもっと沢山自生していたものと思われる。こんな状態だと山にあるものは全部里人に堀りこがれ絶滅してしまう心配もある。ここで採集してきたオオカナメモチの葉は私のところやその他で植えられているものに比較すると鋸歯があらく大きいので疑問をもち，東大理学部植物学教室と国立科学博物館に所蔵されている中国や台湾産などの腊葉を見せていただいた結果中国の南京と杭州産のもので葉形や鋸歯などの形態がほとんど同じものがあった。オオカナメモチは葉形，鋸歯，および葉質などは想像していた以上に変異のあることを知った。終りに種々御指示と御案内にあずかった大久保一治氏と標本のえつらんをゆるされた東大の原寛博士，金井弘夫博士，国立科学博物館の奥山春季氏に厚く御礼申し上げます。

(八王子市，林業試験所浅川実験林)